損　益　計　算　書

（自平成28年４月１日　至平成29年３月31日）

（単位：百万円）

費用の部		収益の部	
科目	金額	科目	金額
（経常費用）		**（経常収益）**	
一般管理費	490	事業外収益	4
（特別損失）		**（当期損失金）**	**486**
固定資産除却損	0		
合計	**490**	**合計**	**490**

㈱１．当期損失金486百万円は、預金保険法施行規則第３条の規定により、積立金から減額して整理する。
２．各計数は、単位未満切捨て。

○重要な会計方針等

１．固定資産の減価償却方法

定額法を採用している。なお、減価償却累計額は次のとおりである。

有形固定資産　１百万円

また、主な耐用年数は次のとおりである。

建物　８年～18年

その他　３年～20年

２．引当金の計上基準

退職給与引当金

役職員の退職金の支給に備えるため、期末要支給額を基準として計上している。

３．その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理方法

税込方式によっている。

金融再生勘定

貸　借　対　照　表

（平成29年３月31日現在）

（単位：百万円）

資産の部		負債及び純資産の部	
科目	金額	科目	金額
（流動資産）	**6,402**	**（流動負債）**	**649,225**
現金・預金	3,051	短期借入金	299,000
預け金	2,079	預金保険機構債（１年内償還）	350,000
仮払金	90	機構債発行差額（１年内償還）	57
未収収益	981	未払金	123
未収金	199	未払費用	26
（固定資産）	**1,557,407**	前受収益	18
資産買取事業資産	1,555,098	**（固定負債）**	**1,002,665**
買取資産	1,569,980	預金保険機構債	1,000,000
貸倒引当金	△ 14,882	機構債発行差額	2,639
有形固定資産	8	退職給与引当金	26
建物	6	**（負債合計）**	**1,651,890**
工具・器具・備品	1	**（欠損金）**	**△ 88,081**
無形固定資産	0	繰越欠損金	△ 115,569
投資その他の資産		当期未処分利益	27,488
特定協定銀行貸付金	2,300	**（純資産合計）**	**△ 88,081**
資産合計	**1,563,809**	**負債・純資産合計**	**1,563,809**

㈱　各計数は、単位未満切捨て。

損　益　計　算　書

（自平成28年４月１日　至平成29年３月31日）

（単位：百万円）

費用の部		収益の部	
科目	金額	科目	金額
（経常費用）	**20,010**	**（経常収益）**	**47,498**
資産買取事業費	2,995	資産買取事業収入	29,022
買取資産損	2,820	買取資産収入	26,966
買取資産事務費	124	買取資産益	2,055
管理回収業務委託費	51	特定協定銀行納付金収入	1,166
一般管理費	338	特定協定銀行貸付金利息収入	1
貸倒引当金繰入	14,882	貸倒引当金戻入	17,297
事業外費用	1,793	事業外収益	10
借入金利息	35		
機構債利息	1,096		
機構債事務費	661		
（特別損失）			
固定資産除却損	0		
（当期利益金）	**27,488**		
合計	**47,498**	**合計**	**47,498**

㈱１．当期利益金27,488百万円は、金融機能の再生のための緊急措置に関する法律施行規則（平成10年金融再生委員会規則第２号）第25条第１項の規定により、繰越欠損金を減額して整理する。
２．各計数は、単位未満切捨て。

○重要な会計方針等

１．有価証券の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法によっている。

２．固定資産の減価償却方法

定額法を採用している。なお、減価償却累計額は次のとおりである。

有形固定資産　24百万円

また、主な耐用年数は次のとおりである。

建物　８年～18年

その他　３年～20年